

いじめが起こった後のクラスづくり SST 演習

～グループダイナミクスの理解とファシリテーション演習～

講師：鎌田 晴美先生、鎌田 学先生（一般社団法人まなび創造アカデミー）

本田 恵子先生（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授）

日時：3 月 16 日（日）9:00～17:00

形式：早稲田大学中野国際コミュニティプラザ 及び ZOOM によるオンライン研修

第 5 回の研修会は、実際にクラスの立て直しに取り組んだ ADVENTURE IN PEACEMAKING(AIP) プロジェクトを紹介いただきつつ、自分も他者も居心地がよく大切に扱われる存在であることを学ぶプログラムについて体験しました。

第 1 部では、まなび創造アカデミーの鎌田晴美先生と鎌田学先生から、いじめが生じるクラスのダイナミクスの理解と予防的対応について、ワークを体験しながら学びました。第 2 部では、本田恵子先生から、いじめ当事者への集中ワークと、分断されたクラスを立て直すためのポイントを、実際の事例をもとに解説していただきました。

○第 1 部

あまり関係性が深くない人と少しずつ知り合っていくように、2 人組、3 人組がどんどん組み変わっていくアクティビティから始まります。例えば、グー・チョキ・パーを餃子の肉・ニラ・皮に見立てて、3 人で手を出し合って 3 種類揃えばポイントが入る『餃子じゃんけん』など、長くても数十秒でペアが組み変わっていくので、気軽にたくさんの人と知り合うことができます。

そこから、2 人組でできるだけ速く決まった手の動きをする『ハンドクラッピング』で相手と息を合わせるチャレンジ、「〇〇したことがある」などのお題に合うメンバーを探してサインをもらい合う『トレジャーハンティング』を通していろいろな人と情報交換といったことに慣れていきます。

昼休憩と本田先生の解説（次項）を挟んで、午後はグループでの課題解決アクティビティの体験。袋を外側から触って、中に入っている十数種類のをグループで話し合いながら推理する『袋の中身はなんでしょう？』や、12 本のストローとセロテープだけで、高いところから生卵を落としても割れない構造をつくる『エッグドロップ』にチャレンジしました。午前中ですでに関係性ができていたので、即席で組まれたグループでも課題解決に向けて盛んな議論が交わされていました。



アイスブレイクからだんだんと小グループでの課題解決ワークに移っていくプログラム構成

○第 2 部

午前の活動終了後に、この日の活動で起きていたことや、実際にいじめが起きた学校に介入した際の事例を交えながら、本田先生にクラスを立て直す際のポイントについて解説いただきました。

クラスで起きている事態を包括的に理解するためには、問題行動の背景を見る観察力と、それに基づく専門的・客観的・共感的理解が必要となります。そうして得た情報をベースに、「道徳」「総合」「探究」の時間と組み合わせながら、安心感や自己肯定感、集団内での役割意識などを感じられる集団プログラムを組んでいます。

危機介入時は、生徒に対処療法的に向社会的スキルを教えがちですが、それを使うための道徳性、共感性、ストレス耐性といったゆたかな社会性に繋がる力を合わせて育てていくことが大切になります。ゆたかな社会性をもった生徒が多いクラスでは、さまざまな特性の生徒がいても、それを「おもしろいね」「人それぞれだよ」と受け止めることができますが、その逆のクラスでは自分と異なる意見や価値観を攻撃し合ってしまいます。

プログラム中の介入は、「本人が言った言葉や行った行動(事実)」「周りの生徒のその生徒に対する言動」「自分がその生徒に対して感じた雰囲気、感情」といったものを把握し、生徒がその行動で何をしようとしているのか(やりたいこと、やりたくないこと)を想像して関わっていきます。活動を進めたくて周りにイライラしている生徒には、そのイライラのもととなる欲求を見立てて言語化し、ファシリテーターがお手本となって適切に表現する練習ができるようにします。逆に、活動に取り組みたくない生徒に対しては、気持ちを受け止めたうえで、日常場面での困っている場面を例に、本人が自分事化できるようにしていきます。みんなと関わるのが不安や恥ずかしいという生徒には、まずは見ているところから始めても OK という枠組みを提示することもできます。

1 日を通して実践的なクラスの見立てとプログラムの組み立て、プログラム中の介入を学ぶことができ、充実のうちに今年度の活動を終えることができました。

○参加者から（一部抜粋）

- ・午後のワークでは、楽しく考えるヒントをいただきました。「同じ課題に取り組む」ことで、見ず知らずの人とも少しずつ距離が近くなっていく、自分のコンフォートゾーンが広がっていく感覚を久しぶりに味わいました。
- ・グループダイナミクスについて、具体的なアクティビティについて、それをどういった観点で活躍したかなど、とても勉強になりました！あまり聞く機会のないいじめがある学級の中で起きていることも色々知ることができて、イメージもつきましたし、どんな過程を経ると子どもたちが変わっていけるのか、その支えに必要なものはなにか、お話をきいて考えることができました。

次回は、令和 7 年度 総会

日時：5 月 17 日（土） 19:00～20:30

場所：ZOOM によるオンライン研修

記念講演会

「これからの通常学級におけるインクルーシブ教育の方向性～スウェーデンから学ぶ～」

講師：是永かな子氏 高知大学教育研究部人文社会科学系 教育部門

